



コスモスだより

乳がん高度検診・治療センター 更なる充実へ



ピンクリボン運動

市立貝塚病院では、乳癌の早期発見・早期治療を啓発するピンクリボン運動を積極的に応援しています。



病院の理念 基本方針

地域住民を守る良質な医療の提供

1. 医療を通じ患者さんの喜びが自らの喜びになるような職業人をめざします。
2. 常に技術の研鑽に努め、高度な医療の提供により、病気の早期発見・治療の充実をめざします。
3. 患者さんの治療には、各々の職務を結集したチーム医療をめざします。
4. 地域の医療機関と連携を密にし、信頼される中核病院として急性期医療をめざします。

乳がん高度検診・治療センター

更なる充実へ

当院の『乳がん高度検診・治療センター（以後 乳がんセンター）』は、大阪南部地域において最新の乳がん診療を行うため、平成18年4月に開設されました。診断・手術・化学療法のすべてに対応し、高度化する診療・治療技術に随時対応しながら、最新の高度な医療をご提供してきました。

本年は、より一層の【医療の質の向上】を目指し、更なる充実をすすめてまいります。

- ◆ 4月より、乳がんの権威 高塚 雄一 Dr を招聘
- ◆ 拡充計画 23年度中完成に向けて進行中

■乳がんセンターの「人」と「施設」の充実は、一般病院で関西を代表するまでの医療体制に。

当センターは、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が認定・公表している読影認定医、読影認定技師が所属し、「マンモグラフィ検診施設画像認定施設 A ランク」も取得。また「検診精密検査実施機関基準」に合格、「日本乳癌学会認定施設」の認定も受けており、乳がんセンターとしての必要条件すべてを満たす施設です。当センターは、開設当初から【質の高い高度医療】を掲げて取り組んでまいりました。開設から5年を経て、関西を代表するまでに充実した乳がんセンターへと成長したと自負しています。

徹底した専門医体制

- 乳腺学会認定専門医が4名在院。
- 乳がん専門の放射線診断医が在院。
- マンモグラフィ読影医認定8名が在院。
- 乳房再建に欠かせない形成外科医が在院。
- ※読影：マンモグラフィで撮られた画像から診断をすること



高い診断技術

一般の医療施設では、マンモグラフィの読影（診断）を外科医が行っていることが多く、専門の放射線診断医が読影している施設は多くはありません。また、当院のようにマンモグラフィ読影医認定を持った医師（外科医・放射線診断医）が計8名も在籍している施設は非常に少ないと言えるでしょう。外科と放射線科の乳がん専門医集団が、全ての症例で合議しながら画像をダブルチェックをすることで、より精度の高い診断を行うことができます。こうしたダブルチェックのシステムは、外科医の負担を軽減し治療に専念できる面でも優れた体制と言えるでしょう。

再建までの一貫した治療を実現する常勤形成外科

乳がん治療の際には、乳房の再建を考慮する必要があります。乳房の再建は形成外科医の専門です。形成外科が在籍していない施設では、後日転院をして形成外科がある病院で行うか、外科医が再建まで行っている施設もあります。しかし、再建のクオリティー（質）の点では、やはり形成外科医が行うべきことです。再建を行うか、どのような方法で行うか、どのタイミングで行うかー 乳房再建は、がん切除手術の前から患者さんしっかりと話し合う必要があります。そのため、医療チームに形成外科の存在は欠かせません。

充実した診断設備とスタッフ

- マンモグラフィ2台（マンモグラフィ撮影認定技師3名）
- 超音波検査（乳腺超音波検査専門技師1名・乳腺専門医4名）
- 腹臥位式マンモトーム（放射線科専門医・放射線技師・看護師チーム）
- 赤外線力メラ観察装置（PDE） 他

腹臥位式ステレオガイドマンモトーム

患者さんに優しい、生検組織採取の方法です

マンモグラフィでしか見えない石灰化病変の診断のため、組織の一部を取り出す場合があります。腹臥位式マンモトームは、楽な姿勢で採取できる装置で、大阪南部では当院にのみ設置された機器です。

組織採取を行う場合、多くの施設ではマンモグラフィに装置をオプションで取り付け、座ったままで太い針を刺す方法で行われます。麻酔下で行われるため痛みはありませんが、太い針や出血なども見えてしまい気絶される方も多くいらっしゃいました。一方、当院の腹臥位式マンモトームでは、うつ伏せた状態で行い姿勢が楽なうえ、出血なども直接見ることがなく心理的な負担も大きく取り除いてくれます。



腹臥位式マンモトーム



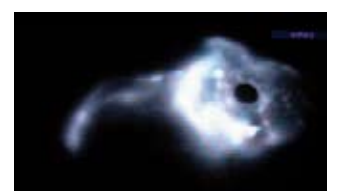
マンモグラフィー



超音波検査（エコー）



術中センチネルリンパ節生検



PDE で捕らえたリンパの流れ



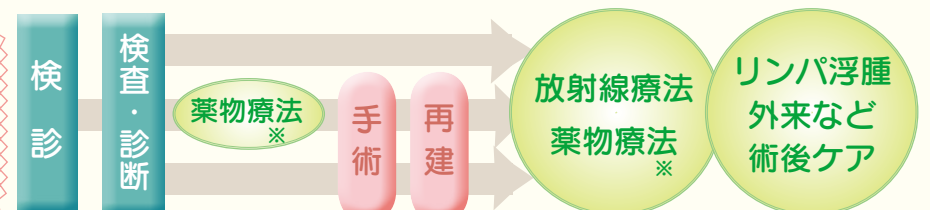
化学療法センター

認定看護師や専門技術を持つ看護師も活躍

当院では、看護スタッフの看護技術向上のもと、専門看護師認定などを積極的に支援しています。現在、専門的で高度な教育を受けた『乳がん認定看護師』1名と、リンパ浮腫ケアの専門資格を持つ看護師2名が活躍しています。

一貫した医療体制

『乳がん自己検診法』
出張講座
看護師を中心とした
出張キャラバン隊



※薬物療法には、抗がん剤・ホルモン療法・分子標的薬などがあります。

- 早期発見のための自己診断指導から、手術後のリンパ浮腫ケアまで、当院では一貫した医療体制が整っています。
- 当センターの中に、乳がんの検査から治療にいたるまでに必要な様々な設備が集約されており、患者さまにご不便をおかけすることをできる限り減らし、落ち着いた治療や検診を受けていただけます。

■重要性が高まる『乳がんセンター』

乳がんは、「特別な病気で自分には関係ない」と思われる傾向が強いです。しかし、生活スタイルの欧米化に伴い、決して特別な病気ではなくなりました。今では女性のがん第1位で、20人に1人が乳がんになると言われています。こうした中、高度な検診と治療が可能な『乳がんセンター』の役割は更に高まっています。

乳がん検診を受診して、早期発見・早期治療を

乳がん患者の現状

日本	欧米
20%程度	70～80%
増加	減少
増加	増加
検査受診率	死亡率
死亡率	罹患率
罹患率	(かかる人)

日本でも欧米でも、患者数は増加傾向にあります。しかし、欧米の死亡率が低下しているのは、医療技術の向上はもちろん、検診の受診率が高く早期発見が多いためです。反対に日本の場合は、受診率が低く進行した状態で発見されることが多いのが現状。罹患率の急激な増加に伴い、死亡率は増加しています。

オーダーメイド治療の実現

一人ひとりにより効果的な治療を

がんの治療では、『オーダーメイド治療』という言葉が使われるようになりました。一口に乳がんと言っても、一人ひとり実にさまざまです。場所や大きさ・進行度合いなどのほか、がん細胞の違いも分子レベルで解析できるようになっています。こうした高度な技術により、一人ひとりにどのような治療が効果的かを判断できるようになっているのです。

希望に沿った『治療』・『再建』の選択を

乳がん治療では、腫瘍部分の切除をいかに行うかだけでなく、『再建』についても共に考える必要があります。再建の時期や内容によっても、切除手術の方法も術後処置も大きく異なるからです。高度な検査や治療が集約したセンターの技術を生かし、患者さまの意思やご希望に沿ったオーダーメイドな治療を行っています。

ガイドラインに則った標準医療の標榜

乳がん学会で作られた、日本初のガイドライン

様々な臨床データや研究などの科学的根拠と第一人者である医師たちの力で、『診療ガイドライン』の制作が始まったのは十数年前のこと。それまでは、薬の使用法なども医師個人の経験に負うところが多く、医療の質には大きなバラツキがありました。『診療ガイドライン』に沿った治療を行うことで『医療の質』が底上げされ、大きな成果をあげています。

当センターは、開設当初から「ガイドラインに則った標準医療」を標榜してまいりました。「標準医療を基にしたオーダーメイド治療」を行うことで、質の高い医療の提供に努めています。

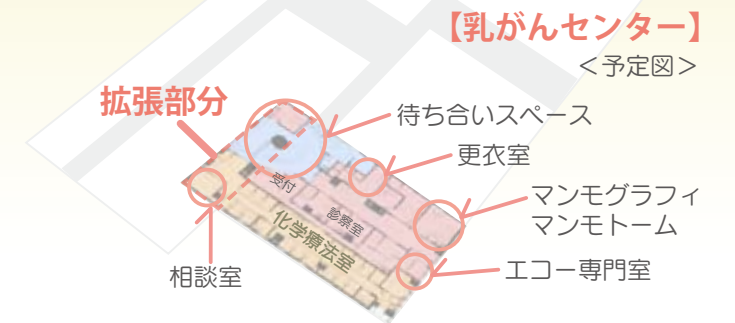
『乳がん診療ガイドライン』を制作した高塚 Dr を当センターへ！

日本初の『診療ガイドライン』を作ったのは乳がん学会。乳がん学会の「診療ガイドライン委員長」としてその中心人物となったのが、4月から当センター総長に就任していただいた高塚先生です。乳がんの権威である高塚先生にお越しいただき、大阪南・和歌山のみならず幅広い地域の皆様のご期待に添えるセンターへと、更なる一歩をすすめてまいります。

(23年中完成予定) より便利に機能的に、そして心地よく――

◆ センターのスペースを拡張し、設備も充実。

- 外来診察室を1室増設
- エコー専門室の設置
- ゆったりとした待ち合いスペース
- プライベートを守る「相談室」も設置
- 更衣室拡張 など
- 化学療法用ベッドも同時に追加



乳がん高度検診・治療センター総長
高塚 雄一

乳がんの権威

◆ 高塚 雄一 Dr センター総長に就任

■ 略歴

日本乳癌学会理事・監事、日本外科学会評議員、日本癌治療学会評議員、日本乳癌学会診療ガイドライン委員長、日本乳癌学会診療ガイドライン評価委員長、関西労災病院副院長（外科管理部長・乳癌外科部長兼務）、大阪大学医学部臨床教授 などを歴任

■ 現在の役職

日本外科学会特別会員、日本乳癌学会評議員、日本臨床外科学会評議員、日本災害医学会評議員、近畿外科学会評議員、日本乳癌学会近畿地方会顧問、日本癌治療学会診療ガイドライン評価委員、兵庫医科大学客員教授

■ 資格

日本乳癌学会専門医、日本外科学会指導医および専門医、日本癌治療認定機構暫定教育医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本癌治療学会臨床試験登録医

充実した人材と設備を、良い医療へとつなげる

『乳がんセンター』として、これほどのソフト（人材）とハード（設備）を兼ね備えた医療施設は、大学病院や一部の乳がん専門病院を除き、希有と言えるでしょう。医療に携わる者として、非常に魅力的でやりがいのある現場です。このセンターの大変恵まれた資源（人・物）の力を最大限に引き出すことが、センターをまとめる管理者として私に求められていることであると考えています。当センターでは、高度な専門性を持つスタッフが協議し協力しながら医療をすすめる『チーム医療』が既に根付いており、手術件数も平成22年度には150例を越え、患者様からも地域の医療施設からも一定の評価を得ていると判断できる件数を扱っています。しかし当センターには、地域により多くの貢献ができる力があり、その責任があると感じています。一つは、治療効果をさらに向上させる体制と技術を強化すること。もう一つは、乳がん検診受診率を向上させ、『早期発見・早期治療』を行うことで、乳がんで亡くなる方を少しでも減らすことです。『乳がん高度検診・治療センター』は、その名の通り治療だけが目的ではありません。当院のセンターを多くの方に知っていただくとともに、皆様に積極的な啓発活動を行うことも、とても重要な役割です。

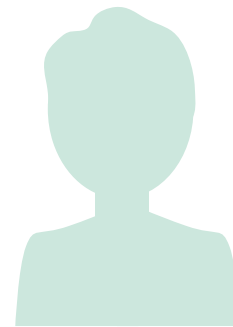
患者からも医師からも認められ、新たな標準を生み出せる医療を目指して

『診療ガイドラインに基づいた標準治療』は、優れた技術と高い志を持った医師達の臨床の場から生み出されました。技術や医薬品の進歩に合わせ、その中身は数年毎に改訂されステップアップしています。『標準医療を実践するだけでなく、標準を生み出すレベルにする』これが私の最終目標。これは非常に高いハードルです。しかし、目標は高くあってこそ歩んでゆける。まずは患者様に認めていただく医療をすること。そこから、他施設の医師からも評価を受け、優秀な若い人材が集まる病院とすることです。こうした努力が目標に向かっての不可欠なステップであり、大阪南地区の安定した地域医療につながると考えております。

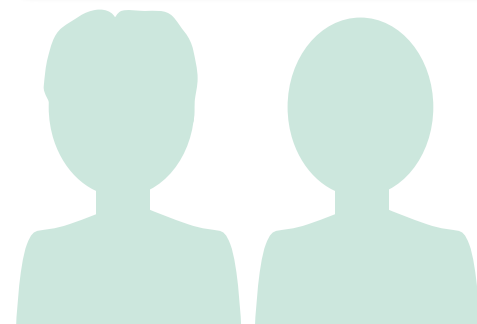
「乳がんセンター」を支えるスタッフ達

当院「乳がんセンター」が目指すのは、『より質の高い医療の提供』です。そのため、当センターは高い専門性と技術を持つスタッフで構成しました。しかし、『医療の質』は専門性だけでは実現できません。スタッフの連携と協力体制そして信頼、『質の高いチーム医療』があつてこそ、その専門の力が最大限に発揮されるのです。

当センターは、医師はもちろんのこと看護師・薬剤師・技師も院内・院外の勉強会に参加し、乳がん治療に対する幅広い知識を共有しています。それぞれの立場で『患者さんのために今自分の出来ることは何か』を一步踏み込んで考え実行する。そんな医療現場であるために、スタッフ一同日々前進したいと考えています。



乳がんセンター長
西 敏夫



副センター長
吉田 哲也

副センター長
井上 共生

乳腺外来

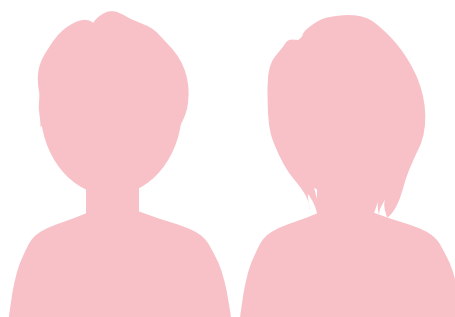
乳腺に関するさまざまな訴えにまず対応する窓口

乳腺には乳がん以外にもさまざまな病気があり、乳腺の異常を訴える患者さんの7～8割は乳がんではありません。乳腺外来は、乳腺の痛みやしこりなどの症状に対し、乳がんではないか精密検査が必要なものの判断を下し、検査の指示を出すのがまず第一の仕事。乳腺の専門家として、幅広い乳腺のトラブルに対応しています。痛みやしこりの他、分泌物があるなど何か違和感や異常を感じたら、迷わず乳腺外来を受診してください。

看護師 リンパ浮腫外来・化学療法室・センター外来看護師兼任

術後に発生しやすいリンパ浮腫に悩まれる患者さんのケアを

当センターの看護師は、外来業務から化学療法まで幅広い分野の医療業務を行っています。中でも、手術後に起こりやすいリンパ浮腫（むくみ）は、専門の資格を持つ2名の看護師があたっています。リンパ浮腫のケアはまだ保険診療ではないため、あまり普及しておらず取り組んでいる施設も多くはありません。しかし、一度発症すると完治が難しいリンパ浮腫。できるだけ早くケアを始め、患者さん自身でセルフケアをすることが大切です。一人の患者さんと長く向き合うことになる看護師、同じ女性として少しでも役に立ちたいと、さまざまな業務に取り組んでいます。



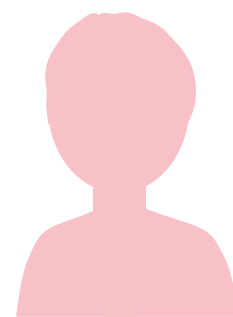
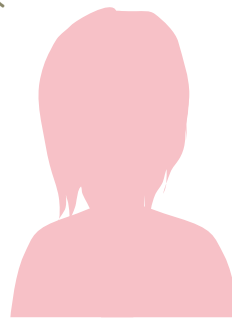
真野 綾子

岡山 奈美

看護師 乳がん認定看護師 梅本 郁奈子

全国で150人に満たない数少ない乳がん看護の専門家

乳がんに悩む患者さんの姿を目の当たりにし、看護師として何が出来るのか・・・一念発起した梅本さんは、乳がん認定看護師の取得を決意しました。子供を実家に預け、半年間休職をして単身教育研修へ。昨年5月には認定試験に合格。患者さんやご家族に寄り添い心理面でのサポートも行いながら、看護師への指導を行い看護レベルを向上させる、責任ある専門家として活躍中です。



受付 竹内和美

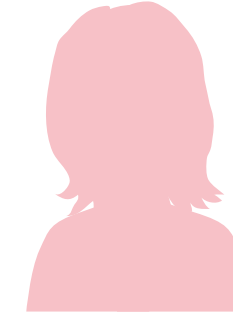
患者さんに不安を与えないよう笑顔で対応

センターに来られた患者さんと一番接するのが受付です。不安を感じておられる患者さんだからこそ、笑顔が大切。待ち時間がどうしても長くなってしまうことが多いため、患者さんの様子に気を配るよう心がけています。

乳がん放射線診断 放射線科部長 沢井 ユカ

マンモグラフィ読影医師認定 A ランクを持つ画像診断の専門家

当院では、画像診断を専門とする放射線診断医の中でもマンモグラフィ読影医師認定 A ランクを持つ医師が常駐し、マンモグラフィ読影医師認定を持つ外科医と共に、精度の高い読影（診断）を行っています。当院には認定を持つ医師が8名在院、うち A ランクが2名と、他にはない非常に充実した診断体制といえるでしょう。認定は5年毎に更新試験を受けなければ取り消しという現実即したシステムで、A ランク取得の沢井 Dr は、院外でも積極的に後進の育成にあたっています。

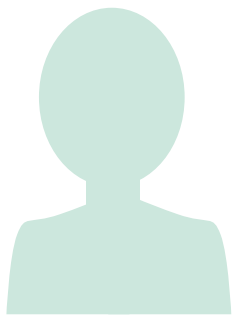


病理検査

病理医 山崎 大

病変の最終診断をくだす「病理検査」の頭脳

病理検査では、採取した病変（病気の部分）ををさまざまに加工して顕微鏡で見ることで、良性が悪性かだけではなく、どのような性質の細胞で、どのような治療が効くのかまでを判断します。乳がんだけでなく、がんのオーダーメイド治療には欠かせません。しかし病理医は全国でも2,000人弱と非常に少なく、常勤医として勤務している施設もまれです。当院では、この病理医常勤体制が、迅速な診断と治療を可能にしているのです。



臨床検査技師 加藤 充

求められるのは、正確さとスピード

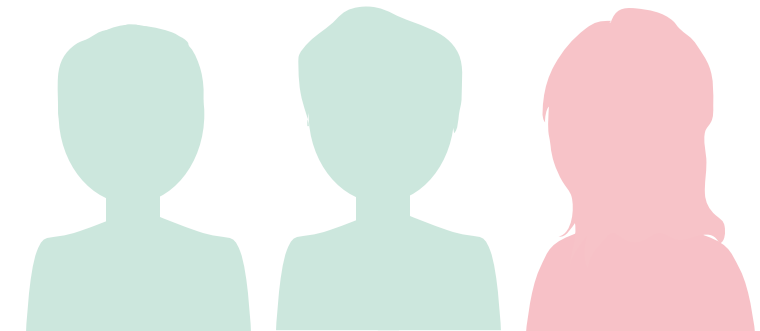
臨床検査技師の中でも、細胞検査の専門資格を持つエキスパート。がんなどの疑いのある細胞があるかどうかをスクリーニング（選別）する役割を担っています。長年の経験と病理医との連携で、数多くの検査を行っています。

診療放射線技師

（マンモグラフィ撮影）

技師もマンモグラフィ装置も
オール A ランク認定の確かな画像

乳がんの画像診断に使われるマンモグラフィは、乳房専用のレントゲン撮影です。診療放射線技師がいくつかの種類のレントゲン撮影を兼任している施設が多い中、当院ではマンモグラフィ撮影資格を取得した3名の専任技師によって行われています。3名とも A ランク認定を取得。その上、当院設置のマンモグラフィ装置2台ともに A ランクを取得し、施設・技術ともに信頼のおける映像を医師に提供しています。診療放射線技師の技術によって画像の質が変わるのはもちろんのこと、放射線の被曝量も変わると言われています。この認定は定期的に行われ、実際に撮影した画像と試験によって審査される厳しいものなのです。



矢竹 秀穂

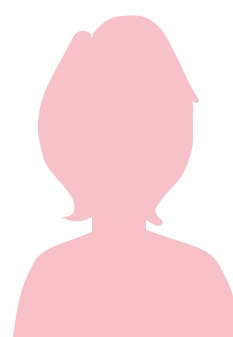
小林 直樹

亀山 澄子

薬剤部 主任薬剤師 松岡 智美

抗がん剤の調剤はもちろん化学療法の安全な治療の要

抗がん剤の調剤には被曝の危険性があるため、安全性を確保する特殊な器具を使って調剤されています。抗がん剤には多くの種類があり、適用するがんの種類でも投薬の量や次の投薬までの期間などが異なります。薬の量や薬の組み合わせなど、医師が出したスケジュールや内容に問題はないか、実際に投薬できる状態かを患者さんの検査値で確認するなど、化学療法を安全に効果的に行うための重要な役割を担っています。



■第25回 市立貝塚病院 市民公開講座

肺がんにならないため、早期発見のため、その診断と最新治療について講演します。

【場 所】 市立貝塚病院 7階講義室 午後2時30分～4時

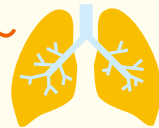
【テーマ】 **肺がん ～その診断と最新治療～**

【講 師】 市立貝塚病院 特任副院長 松井 薫

【費 用】 無料（定員80名 要予約）

【申込・問合せ】 市立貝塚病院 地域医療連携室 ☎072-422-5865（内線：236）
※1階総合案内でも受付いたしております。

平成23年
5月25日
(水)



■『乳がん自己検診法』出張講座のご案内

乳がんの早期発見の有効な手段の一つに、自己検診法があります。当院では、看護師が中心に『自己検診法の普及キャラバン隊』を結成し、ご希望の場所に出向いて講座を行う取り組みを行っています。

【条 件】 参加人数10名以上（原則）

【範 囲】 貝塚市および近隣市町（車で片道30分以内の場所）

【日 時】 火曜日 午後1時～午後4時（基本コース：1時間）

【内 容】 ビデオ・講義・実技演習・質疑応答

【費 用】 無料

【申込・問い合わせ】 市立貝塚病院 地域医療連携室 ☎072-422-5865（内線：236）

乳がん検診を受けましょう



地域連携ニュース

■開業医紹介コーナーのお知らせ

市内の医療機関を中心に、開業医紹介のパンフレットを1階「地域連携コーナー」にて配布しております。是非ご利用ください。
※医療機関のパンフレットの配布希望も承っております。

【申込・問合せ】 市立貝塚病院 地域医療連携室
☎072-422-5865（内線：236）



■外来栄養指導のご案内

地域の皆様の食生活をサポートするため、患者様の個別栄養指導を行っております。
当院に通院中の患者さまは、主治医にご相談ください。

【条 件】 他院の先生からの紹介と事前の予約が必要です

【日 時】 金曜日 ①9:30 ②10:00 ③10:30

【人 数】 3名

【申込・問い合わせ】 市立貝塚病院 地域医療連携室 ☎072-422-5865（内線：236）



リニューアルした貝塚病院広報誌 「コスモスだより」第1号をお届けします

さる3月11日、東北・関東をおそった大地震は、
想定を超えた巨大な津波、原子力発電所事故による
放射能汚染、大都市での計画停電など、
これまで誰も経験したことのない
未曾有の被害と混乱をもたらしました。
被災された皆様には、この場を借りて
深くお見舞い申し上げます。



院長 長松 正章

今、季節はまた春がめぐってまいりました。どんなに厳しい冬も必ず春を迎えるように、いかなる困難に直面しようとも、必ずや我々日本人は全員の力をあわせてこの難局からの復興がなされるものと信じております。

市立貝塚病院もまた厳しい医療情勢のなかではありますが、常に地域の貢献に努めてまいりました。また本年度より病院の理念を「地域住民を守る良質な医療の提供」と改め、一層地域住民のために努力して参る所存であります。もちろんまた医療レベルの向上にも力を注ぎ、新年度からは乳がんセンターの拡張、スタッフの一層の充実、最新の放射線治療装置の稼働が予定されております。

そして、この春から市立貝塚病院の内容をもっと広く知っていただきたいと考え、広報活動にも力を入れてまいります。これまでの「地域連携ニュース コスモスだより」を大幅にリニューアルし、「広報誌 コスモスだより」として発刊いたしました。地域の皆様や患者様にも気軽に手に取って読んで頂けるような、そして医療関係者の皆様にも有用な情報源として使って頂けるような、明るい装丁と充実した内容を目指しております。

今後は年4回の季刊発行の予定ですが、初年度の今年は、5月にも特別増刊号を発行予定です。ぜひご愛読くださるようよろしくお願い申し上げます。

東北地方太平洋沖地震義援金の募集

市立貝塚病院では、東北地方太平洋沖地震義援金の募金箱を1階総合案内受付に設置し、職員や皆様からの義援金を募っております。
集められた義援金は日本赤十字社を通じ、被災地の支援、復興のために使われます。

ご協力をお願い申し上げます。

